

病院年報（平成17年度）：国際保健医療科

1. 国際保健医療科の沿革と現状

平成6年（1994年）10月に佐久総合病院の地域医療や農村医学研究の経験と成果を生かして、国際協力活動を進めるべく設立された。平成12年には、前清水院長によって定められた新しい病院理念と行動目標に、国際貢献と国際協力が詠われた。平成14年より、国際協力機構（JICA）プロジェクトやJA全中と協力して、フィリピンのベンゲット州において八千穂村をモデルにした健康管理活動を実施しているが、本活動は平成17年度現在まで継続されている。ベンゲット州の北隣のマウンテン州でも、平成16年3月より、巡回型健康管理活動（CHOP：Community health Outreach Program）が実施されている。これらの活動主体は、途上国から佐久病院を研修員として訪れた人々である。フィリピンでの活動は、農村保健・医療分野の国際協力の事例として、各国から佐久病院を訪問したCPにも研修の一部として紹介している。平成17年度も、JICAプロジェクトのカウンターパート研修や集団研修プログラムなど、途上国からの地域医療・農村医療に関する多くの研修員を受け入れるとともに、JICA専門家派遣の機会等を利用して、研修フォローアップを実施し、研修成果の評価や帰国後の研修員の活動を支援してきた。平成17年度より、国際医療協力班“途上国における社会開発、地域保健システム強化に関する研究班”に加わって、病院と地域との連携強化をテーマに国際研究を実施している。

2. 平成17年度活動内容

2. 1. 途上国からの研修員受け入れ

国際協力機構（JICA）やJA全中、農村医学会などとの連携を通じて、引き続き海外からの視察者・研修員を受け入れ、外国人視察・研修員の累計は、96カ国から1052名になっている（図1、2）。研修員に同行して、国内の国際保健協力関係者も多数来院していて、国際協力に関係する多くの国内機関とも協力関係にある。1999年から2005年の研修視察者350人のうち、80%がJICA関係の地域保健・農村医療の研修目的であった（図3）。研修受け入れには、佐久病院の各部門からの協力を得たほか、八千穂村、北相木村、川上村などの地方自治体、JA佐久浅間農協、臼田小学校など、地域の関係諸機関と連携し、佐久地域全体の保健医療システムや活動が理解できるような研修モジュールによって実施している。途上国の保健政策や医療計画の参考になるよう、また、途上国の現状に適応させるべく、佐久病院の経験と農村保健のコンセプトを中心に計画したものであり、途上国の研修員や国内研修関係機関の評価を得ている。

2. 2. 研修フォローアップとJICA 専門家派遣

研修成果を評価すると共に、研修員の現地での活動支援を目標に、研修フォローアップ

を実施している。次章に述べるフィリピンでプログラムも研修フォローアップとしておこなわれた活動であるが、昨年度は、ラオス“子供のために健康プロジェクト”（KIDSMILE）に短期専門家として派遣され、ラオス保健省の研修員13名のフォローアップとプロジェクト活動に対する指導助言をおこなった。同プロジェクトでは、病院祭のコンセプトを使って、こどもの日にあわせて、“病院にいこうキャンペーン”を実施しており、2県の19郡病院で、一斉に、病院祭がおこなわれた（写真1：KIDSMILE プロジェクト提供）。研修フォローアップは、ベトナムでも実施したが、研修評価と研修員支援を組み合わせた活動として極めて有用であり、今後も継続したい。

2. 3. フィリピンでの保健医療協力活動

2. 3. 1 ベンゲット州のPMHSとCBHPP活動

ベンゲット州における健康管理活動の指導助言のため、昨年引き続き、国際保健医療科出浦が数回に渡ってフィリピンを訪問した。タバオPMHSは、JICAの農協強化プロジェクトと連携協力し、ベンゲット州保健当局の支援を得て始まった八千穂村をモデルにした村ぐるみの参加型健康管理プロジェクトであるが、平成17年度は、4回目の集団検診が実施された。今年度も全住民の50%以上が、集団検診を受けた。また、農協を中心にした健康促進プロジェクト（CBHPP）も継続実施されている。CBHPPは、日本の農協活動を参考にしたタバオ55自給運動（T55SSM）や、農協支援による村落薬局（BB）が開設されるなど、運動が進んでいる。カパンガン地区では、全小学校で学校検診がおこなわれるなど、PMHSの波及効果が見られている。

2. 3. 2 マウンテン州パラセリス地区での巡回型集団検診活動

マウンテン州は、ベンゲット州の北隣の山岳地帯に位置する州であるが、2004年より、パラセリス地区保健センターと協力して、農村保健研修のフォローアップ活動として開始された。パラセリス巡回型農村保健プログラム（Community Health Outreach Program in Paracelis：CHOPP）と名づけたこのプログラムは、パラセリス保健センターで行われていた月一回の“出張診療”をベースにして考案されたプログラムである。

従来出張診療に準じて簡単な治療を実施する一方、健康教育と保健指導を実施し、パラセリス保健センターによる独自のローカル医療保険（Peso for Health Insurance：P4H）を推進し、さらに農協による薬剤回転資金制度を利用した村落薬局（Botika Binhi：BB）を開設して住民の薬剤に対するアクセスを容易にするなど、きわめてユニークなプログラムである。2004年3月に始まった巡回検診は、パラセリス地区内の全10バラングアイで定期的実施されている。P4Hメンバーも加入者が3000人をこえた。また農協による村落薬局も運営は順調に進展し、地域内の2農協が正式な薬局を開設し、ランチとして遠隔地に合計15のBBが開設された。州教育局と協力して学校検診活動も実施されている。CHOPPは、昨年度の州保健局の最優勝活動賞を受けたが、今年度からは、フィ

リピン UNFPA と連携して活動をおこなうことになっている。

これらのフィリピンでの活動は、昨年11月の、第10回アジア農村医学会に参加した現地責任者から、活動報告がおこなわれた。(図4、5、6)

2. 4. 国際医療協力研究

途上国における社会開発技術、地域保健システム強化に関する国際医療協力研究班(建野班)に参加して、病院と地域との連携強化をテーマに研究をおこなった。初年度は、日本、フィリピン、ベトナムで、保健ボランティアや地域保健活動に関する基礎調査をおこなった。地域保健システムを強化し、基礎的な保健サービスを包括的且つ効果的に提供するために、どのように保健医療機関と地域との連携を進めるか、途上国に適応可能な方策を研究し、提言するのが目的であるが、研究活動を通じて、これらの国における諸活動のモニタリングや研修員の指導助言も実施している。

3. 今後の活動方針

佐久病院国際保健医療科は、研修受け入れとそのフォローアップ、フィリピンでの保健医療協力の実績など、農村保健・地域医療分野の国際協力活動を進め、その役割を果たしてきた。研修受け入れを通じて、JICA や国立国際医療センターなど、国内機関との連携も強化されてきている。平成17年からは、途上国における開発・地域保健システム強化に関する研究班にも参加している。こうした活動を通じて、佐久病院の農村保健のコンセプトと方法をさらに途上国に普及させたいと考えている。コミュニティーヘルスは、JICA 理事長の緒方貞子氏の言う“人間の安全保障”の基本を担う分野であり、この分野の協力は、今後の国際保健医療協力を欠かせない。今後も、JA や日本農村医学会など、関連機関とも協力して、佐久病院の国際協力活動をさらに進展させたいが、病院の支援とコミットメントが必要である。また、佐久病院労働組合や、青年海外協力隊(JOCV)経験者、研修医などが、ボランティア活動や社会貢献活動として、海外協力活動にも参加することを期待している。こうした活動を通じて、地域の国際交流・協力活動が、一層活発になることを期待する。

(国際保健医療科 出浦喜丈)

図1：佐久病院への海外からの研修・視察者の推移

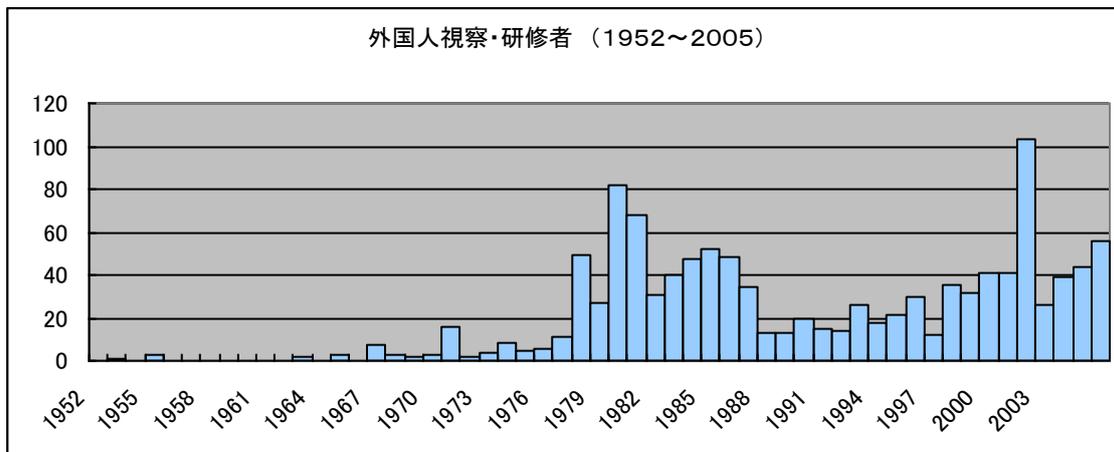


図2：地域別視察研修者の割合（1999-2005年）

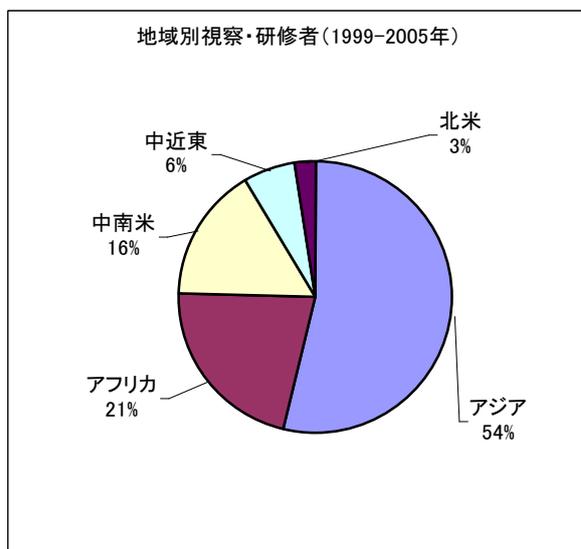


図3：研修受け入れの関係機関（1999-2005年）

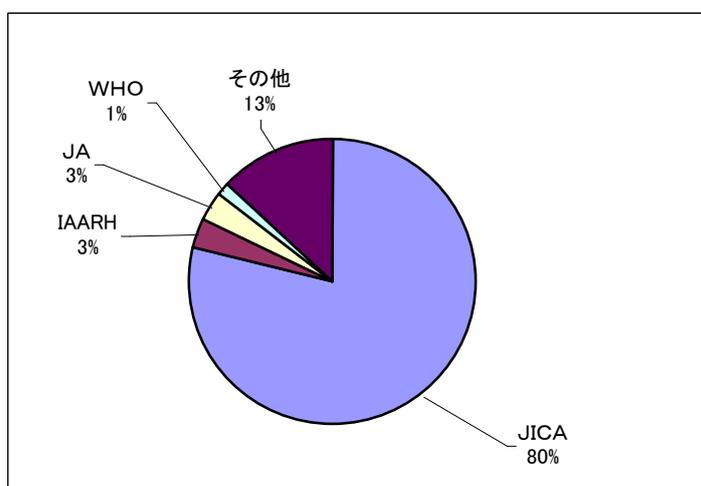


図4：ラオス KIDSMILE プロジェクトでの病院祭風景—
病院へ行こうキャンペーン (KIDSMILEプロジェクト提供)

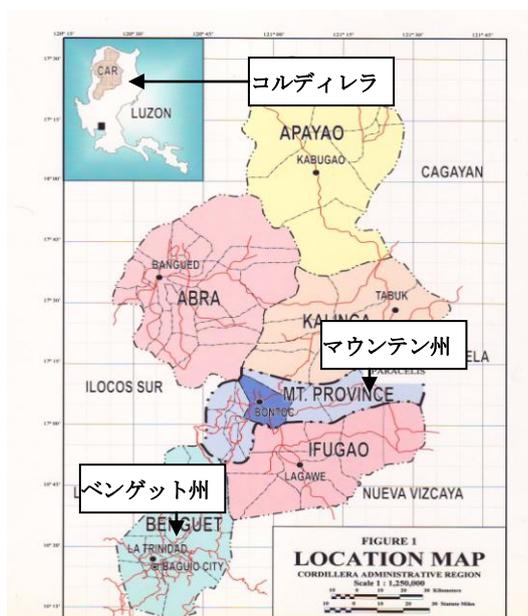


図5：フィリピンのルソン島北部コルディレラの
ベンゲット州とマウンテン州

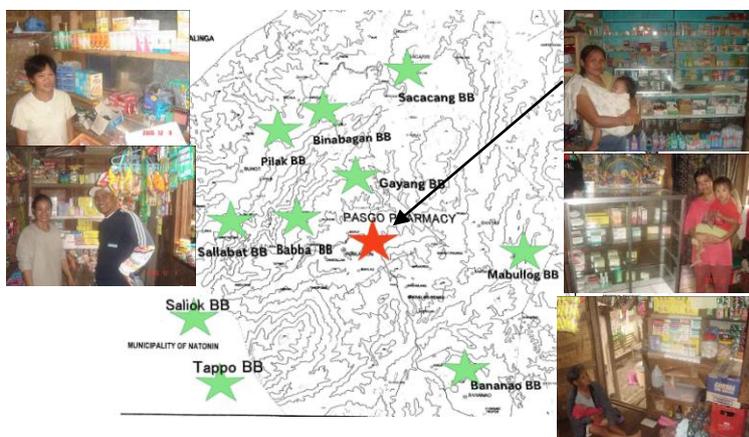


図6：マウンテン州パラセリス
のPASGO 農協による基幹薬局
(赤星)と村落薬局 (BB) (緑
星)